

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201120		
法人名	有限会社 RAIMU		
事業所名	グループホーム ほほえみ	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市萩坂町1750-1		
自己評価作成日	平成31年1月28日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成31年2月12日	評価確定日	平成31年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症介護指導者である代表者を中心に地域での暮らしが継続していけるように、地域住民の方々、協力医療機関などのご協力を頂きながら、日々理念である「らしくいきよう むげんに」を念頭に認知症ケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームほほえみ」は2つのユニットがあり、リビングは明るく、窓も大きく、山や田畑などを眺める事ができる。道路向かいに協力医療機関(クリニック)があり、ご利用者の方々はクリニックでリハビリを受けている。医療連携もできており、必要時は毎日往診して下さり、職員の安心になっている。代表と職員は「パーソンセンタードケア」を大切にされており、入居者個々の生活歴や思いを大切にされており、地元の方も多く、神社の夏越祭り、地区運動会の応援、地区文化祭の見学など、地域の一員として参加されている。日曜大工や家庭菜園、家事等の役割を担って頂き、排泄や食事の自立支援、適切な口腔ケア、清潔保持などを行っている。家族の面会も多く、他の入居者に対しても優しい心遣いを頂き、職員も嬉しく思っている。法人全体で職員のレベルアップに努めており、「コーチング」「認知症ケア」等の内部研修も続けている。代表、管理者を中心に職員は結束しているが、人員体制が限られており、今後も勤務シフトの改善やケア内容の見直しなどを行っていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や勉強会、カンファレンスの際に運営理念を意識できる様な内容になっている。「自分が入りたい施設作り」を合言葉に、理念の共有、意識付けを行っている	「その人らしさを大切に、生きがいを持って生活が送れるように…」という理念を大切にされている。“その人らしさ”を大切にするために生活歴を把握し、培ってきた事を日々の生活で発揮して頂いている。今後も食の楽しみを増やし、地域の方々との交流を増やしていく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	もともと地域に生まれながらの方を中心に、地域の行事や祭り、運動会などの見学に積極的に参加している	地域の夏越祭り、避難訓練、地区運動会など、入居者と参加している。中学校の職場体験(介護体験)も受け入れ、中学校での発表会に招待して頂き、お礼状等も頂いた。外出時に地域の店の方から認知症について尋ねられ、相談窓口などを紹介したり、言葉かけの仕方等をお話している。	今後も地域の方が参加しやすい行事(秋祭りなど)を企画し、餅つき等を一緒に楽しむ機会を増やし、気軽にホームに来て頂けるように努めていく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交番のおまわりさん、民生委員、商店の方々の理解を得て、散歩支援や、入居者様の困りごとの対応等の支援が頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員をはじめ地域住民の方や有識者の方より地域性を学び、外出等のきっかけになっている。また、施設での生活・行事等についても、様々なアドバイスを頂いている。	入居者の状況や職員の人員体制、日々の取り組みや行事等を報告しており、参加者からアドバイスを頂いている。地域情報を教えて頂いたり、駐在所の方から高齢者の詐欺等の情報、地域包括の職員から宮地区全体で試験的に行われている「百歳体操」等を教えて頂いている。頂いた意見等をケアに取り入れ、次の運営推進会議で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人代表者が、市からの依頼で様々な形で高齢者支援に携わっている	代表は県の役職(人材確保等)、地域支援推進員、認知症介護指導者として長崎県下の地域包括会議等に参加し、様々なアドバイスをしている。必要に応じて代表が市の担当者にホームの実情を報告し、密に情報交換を行うように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は実施していない。定期的な勉強会の開催や伝達研修。また、会議でも議題として取り上げている。	法人で虐待防止委員会や身体拘束防止委員会を開催している。勉強会を行い、毎月の会議でも検討しており、外部研修にも積極的に参加している。穏やかに過ごされている方々が多く、身体拘束の無い生活をされているが、転倒リスクがあることや日々のケア内容等を契約時に説明している。	

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の開催や定期的に会議の議題で取り上げ、身体的な虐待はもちろん、言葉による虐待や性的虐待などに関しても知識を深め、防止・廃絶に努めている。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の方との連携は取れている。三ヶ月に一度程度の訪問時や、電話や手紙等で近況報告を行ない、後見人にも情報を伝えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約の内容説明を管理者が丁寧に行い、入居者様やご家族様にご理解ご納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他、日々の入居者との会話や、家族とのやり取りの中で、出来るだけ多くの意見を頂けるように努めている。	家族の面会が多く、面会時に健康面や暮らしぶりを報告し、要望などを伺っている。体調変化時は電話で報告し、家族からも不安や要望を伝えて頂いている。日々の食事に関する要望も頂き、入居者の方と食事を作る機会を増やしていく予定である。家族と携帯電話で話されたり、お孫さんと交換日記をされる方もおられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やカンファレンスにて職員の意見や提案を聞いている。毎日の申し合わせの際にも職員が意見を出しやすい雰囲気作りを行っている。意見や提案に関しては否定的な言葉を使わずに、どうすれば実行できるかを念頭において考える。	代表、管理者等に相談でき、会議等で代表と運営について話し合う機会が作られている。職員から休憩時間や休みなどの希望も聞かれ、勤務シフトの業務改善も検討されている。職員の人員体制を整える努力も続けており、採用面接は管理者がしている。頑張り屋の職員ばかりで、助け合いも行われ、内部研修(毎月)もあり、色々な勉強会が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、自らホームに出向き、職員へ意欲が向上するような言葉掛けをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会の内容や開催日程は代表者が調整している、また入居者の個別の対応についての勉強会など代表者が発信して始まることが多い。		

14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、研修や地域交流会への参加を管理者だけではなく、職員への参加も促し、交流会や会部研修などの参加の機会も増えてきている		
----	--	--	--	--

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご自宅訪問や事前の面会で、アセスメントを実施して困っている事や、不安、要望等を本人・家族から聞きだしている。入居後も1対1で職員が寄り添い不安の軽減に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご自宅訪問や事前の面会で、アセスメントを実施して困っている事や、不安、要望等を本人・家族から聞きだしている。入居後もこまめな電話連絡や面会時等に情報交換することで不安感の軽減に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者やご家族とコミュニケーションを取りながら聞き取りを行い、入居者の様子を見ながら必要としているサービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日曜大工や、家事手伝い(調理・掃除・洗濯物)などそれぞれに出来る事を、入居者にお願ひして実施して頂いている。毎日のお手伝いは日課として取り組まれ、役割分担が出来ている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力病院での検査の付き合いや、協力病院以外の受診をご家族にお願いしている。また、敬老会、クリスマス行事や誕生日会などにもご家族の参加が見られている。		

20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との会話の中で、常にアンテナを張り、話題に出てきた馴染みの人や場所との関係性が途切れることがないように努めている	地元の方の入居が多く、入居者同士やご近所の方も顔馴染みの方がおられ、病院のリハビリ室で再会を楽しまれている。散歩を兼ねて自宅訪問したり、地元の祭りに参加しており、お墓参りや馴染みの散髪屋に職員がお連れしている。家族とお墓参り等に行かれたり、元同僚の訪問もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者は日々の生活の中でお互い声を掛け合ったり、誕生日を一緒にお祝いされたり、良好な関係性が保たれている。孤立しがちな入居者に関しては職員が間に入ることでトラブルを未然に防いでいる		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などの理由で退去された方に関してはお見舞いに行き、関係を継続できるように努力している		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話や行動を通じて意向を読み取り、把握できるように努力している	「その人らしさ」を大切に、農家をされていた方は家庭菜園をして頂き、「温泉に行きたい」「家族に会いたい」「自宅に帰りたい」等の願いを家族と協力して叶えるように努めている。入居者の方々は、「運動しなきゃ」「歩けんくなるから」等の思いを伝えて下さり、日々のリハビリ通院やホーム内での生活リハビリをされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、これまでの暮らしや馴染みをご本人やご家族にお尋ねして把握を行う。入居時にはなるべく入居前に近い環境で生活できるよう、馴染みのものを持ってきていただいたり、お部屋の工夫をご家族にお願いしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者、職員が口頭で伝え合う他、経過支援記録、申し送り帳などを活用して現状の把握に努めている		

26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中でご本人の思いや要望を把握できるようしている。介護計画作成の際はご家族の意向を確認後、カンファレンスを開き全員で作成している	入居者の「要望」「症状」等をケアチェック表に記入している。「できる事は自分でしたい」という要望もあり、食器洗いや家庭菜園、日曜大工、散歩等も盛り込まれている。「自分でトイレ・・・」等の短期目標にあり、実施記録を残しており、今後もケアチェック表に「できそうな事(目標)」を追記する予定である。	「24時間生活シート」を活用し、更なる詳細なケア内容を作成予定である。自立支援に繋がらないケア等を再評価すると共に、週単位・月単位の業務の「見える化」を図り、全職員のケアの標準化や勤務シフトの見直しに活かしていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過支援記録を作成して、個別に記録を作成している。職員申し送り帳を別途作成して、誰でも共有できるようにしている。また、毎朝両ユニット合同で申し合わせを情報の共有に努めている。そこで出た気付き等を基に介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事のメニューを尋ねたり、行事に入居者の希望を反映させたり、入居者の希望を聞いて支援を行う誕生日個別支援等、入居者様のその時々々のニーズに応えられるように支援を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材の買い出しで馴染みの店に買い物に行ったり、ベランダ菜園を行い、個人個人が力を発揮して生活ができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様・ご家族が希望される病院を受診できるように支援している。受診の際は近況を書面で報告する事ができるように支援している	協力医療機関が主治医の方が多い。ホームの看護師や協力医療機関の医師、訪問看護師に相談でき、職員の安心になっている。看護師に体調変化等を報告し、往診も受けられ、早期対応に繋がっている。家族が受診介助される時は、バイタル等を記録したノートを持参して頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師や協力医療機関の看護師と、日々の介護の中での気付きや不安点などを相談しながら、適切な受診や看護に繋がっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は出来るだけお見舞いを行い、病院やご家族と連絡を取り合っている。病棟看護師やMSWと連携を取り、早期の退院に向けての話し合いやホームへの受け入れに向けて準備について確認を行っている。ご家族にも随時連絡を取り、不安感などの解消に努めている		

33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期、看取りと状態変化があるごとにその都度、ご家族の意向の確認を行い、ご本人・ご家族の意向に沿った支援を提供できるようにしている。また、主治医にも、指導、助言を頂き、入居者の状態に応じた支援を提供している	日々の体調を医師に報告し、往診に来て下さる。家族とも話し合い、不安を解消するように努めており、「最期まで一緒に過ごしたい」と希望する家族には宿泊して頂いている。夜中の体調変化時の対応も家族と話し合い、ホームの看護師と医療機関と24時間の連携ができています。緩和ケアの検討も密に行い、最期まで誠心誠意のケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や外部研修への参加、また、ホームの看護師からの指導等を実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	訓練は定期的実施出来ている。災害の際は地域に知らせる設備がある為、地域住民の協力を得られることができる。水害時にはフロアを緊急避難場所として開放できるように準備している	年2回の訓練時は消防署も参加し、避難方法と留意点の指導をして下さる。消防団も出初式の時にホームに来て下さり、凶面も渡しており、民生委員等から地域の方への協力依頼をお願いしている。代表が日本各地の施設と災害ネットワークを持っており、現在も熊本県の災害支援を続けている。缶詰等を含めた食料を3日間分準備し、貯水もあり、浄化水として使用できる。水害時等は2階のホームで待機(避難)になっている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーやプライドに配慮して、個々が言葉使いや声のトーンに注意を払い、不適切と感じた場合にはお互い注意をしたり、会議で申し送りの際に、議題として上げている。	入居者の喜怒哀楽に寄り添い、行動の背景にある心理や原因を分析している。代表は常に人生の大先輩への敬意を持って寄り添われており、職員も同じ思いを共有している。入居者の方々は、穏やかに過ごされている方が多い。	馴れ馴れしい呼びかけになったり、ケアが重なった時などに語気が強くなる場面も見られる。その都度指導を行っているが、今後も職員同士が声を掛けあい、両ユニットの協力体制を増やし、職員のサポートを続ける予定である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、入居者一人ひとりが個人のペースに合わせて生活できる様に努めている。日常生活にもいても、飲み物や洋服等も自己決定を促し、職員は常に入居者の希望を尋ねるように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならず、その時々入居者の様子や希望に合わせ、入居者の支援を最優先するように努めている。職員間でその都度話し合いを行い、時間調整を行っている		

39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族にも相談しながら、入居者の好みに合わせた、身だしなみやおしゃれが出来るように努めている。訪問カット時に、本人の希望を聞き、パーマやカラーなど好みの髪型にされている。また、外出の際などは職員が手伝い、化粧品もされている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話をしながら、楽しみを持って、食事作りや後片付けができるように支援している。調理への関わりを持って頂くことで、食事への関心も高まっている。食事の際も会話にメニューの話題等を盛り込んでいる	29年5月から、3食共、宅配を利用しているが、1つのユニットは手作りの回数を増やしている。家庭菜園でねぎ等の収穫をして頂いたり、下膳、食器洗い等もして頂いている。鍋パーティ等も楽しまれ、おやつ(たこ焼きなど)を手作りする時もある。	今後も入居者と一緒に調理できる機会を増やしていきたいと考えている。人員体制を確保し、ホームで手作りができる体制を整えていく予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの好みや摂取量の把握はもちろん、体調や状態に合わせて、食材を刻んだり、ミキサー食による食事提供を行い、栄養や水分補給ができるよう支援を行っている。また、本人が食べやすいよう、自助具などの提案や食器の素材や色にも気を配っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず、職員が側につき、口腔ケアを行っている。最初は、入居者様自身で磨いて頂き、磨き残しがある場合には、職員が磨きなおしを行っている。虫歯の有無や、舌苔などの状態把握に努めている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、その人にあった下着やリハパン、オムツを使用して頂くことで、清潔を保ち、気持ちよく排泄をして頂く	排泄が自立し、布の下着の方もおられる。ご本人のしぐさや排泄チェック表を活用し、必要に応じて誘導を行っており、入院時に便失禁が見られた方も、ホームでは失禁が減っている。便秘の時は看護師が排便等をしており、職員同士でパッドの大きさの検討をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多くとれるような食事の提供をしたり、便秘がちな方には、運動を促すなど、なるべく薬に頼らず、自然に排泄できるように支援を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には1日おきに週3回の入浴を実施しているが、倦怠感や不快感などを確認しながら、希望に応じて、時間や日数の調整を行っている。	入浴好きな方が多い。入浴習慣(湯温、体を洗う順番等)を伺い、体調に応じて2人介助で湯船に浸かられている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、歌も聞かれ、柚子湯や菖蒲湯も喜ばれている。入浴できない方は手浴、足浴、清拭等を行い、ベッド上で洗髪などもされている。	

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類などはなるべく馴染みのあるものを使用している。眠れない方には無理強いをせず、飲み物などを提供して、リラックスしてから休んで頂く		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を各ユニットに配置して、職員がいつでも確認できる様にしている。変更があった際は、変更の経緯を経過支援記録や申し送り帳に記入して、周知を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活習慣や生活歴から、それぞれの入居者にあった楽しみを提供している。日々の生活の中からも、入居者の要望や、性格の把握に努め、常に楽しみを持って生活が送れるよう心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外食や遊戯など、ご本人が行きたい場所や食べたい物を聞いて、実現できるようご家族と連携して支援を行っている。医療的な注意が必要な場合には医師や看護師に相談を行っている。日常的な散歩を実施している	週3回程度、隣のクリニックにリハビリに行かされている。天候の良い日はホーム前の駐車場で日向ぼっこしたり、周辺を散歩されている。ご希望に応じて職員と自宅に歩いて行かれたり、西海橋公園でお弁当を楽しまれ、看護師と職員も一緒に川棚の足湯温泉に行かれた方もおられる。イオンで昼食をされた時は家族も来て下さり、一緒に過ごされた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の希望に応じて、いつでもお金を使えるように対応している。また、希望や不安があるときには所持金を見せることで安心して頂いている。施設で預かることを説明することで安心感を持たれている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族と携帯電話で話されたり、お孫様と交換日記をされている方がおられる。文面を一緒に考えたり、電話操作のお手伝いをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度を調整して、過ごしやすい環境作りに努めている。テーブルには季節の花を飾り、季節を感じて頂いている。トイレや浴室には場所がわかるように案内を掲示している	事務用キャビネット等を移動し、フロアを広く使えるようにしている。床は滑りにくく、柔らかい素材が使われ、転倒時の衝撃を和らげている。フロアには複数の畳椅子やソファもあり、思い思いの場所で過ごされている。台所からリビングや居室全体を眺める事ができ、今後も整理整頓を心掛け、居心地の良い空間を維持していく予定である。	

53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースやソファ、また、ベランダや入り口に椅子を設置して、気の合う人同士がくつろげる空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の説明にて、使い慣れた家具や寝具を継続してお使い頂けることをお伝えして、思い出の家具や使い慣れた寝具で居心地よく過ごされている	居室入り口に大きく名前を表示したり、入居前のアパートの部屋番号を表記している方もおられる。寝具、家具、筆筒や椅子、鏡台等を持ち込まれ、お位牌や遺影に手を合わせる方もおられる。家族の写真等も飾られており、職員と一緒にホウキで掃除をされる方もおられ、換気も心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室全体がフロアから見渡せ見守りができるようにしている。トイレや浴室の入り口などに、入居者がわかりやすいように案内を掲示している		